

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【鈴谷小・中・中等教育学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	教科を問わず、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、さらに、問題を読み解く力や表現力をつけるために、豊かな語彙力が必要である。漢字や言葉の意味を理解し、身に付けた知識を他教科や生活の中で活用できるよう、技能を生かせる学習を意図的に計画、実践する。「言葉の特徴や使い方」への取組を継続し、改善状況を検証していきたい。算数の整数・小数の除法の計算で「ドリルパーク」等の個別に蓄積されたデータを効果的に生かし、正解を導くだけでなく、その意味を理解し、表現へと結び付けたい。
思考・判断・表現	国語「書くこと」では、適切な図表を用いて書き表し方を工夫することに課題が見られた。国語のみでなく、教科を問わず、日頃より、文章を書く相手や目的を念頭に置きながら、文章を作成し、推敲する学習を意図的に位置付け指導していく。 算数「データの活用」について、昨年度同様、他の領域と比べて、課題が見られる。児童の思考を促し、適切に表現できる力を育成するため、TT、習熟度別少人数指導等、工夫した指導を行ってほしい。また、問題に対し、正解を導くだけでなく、その意味を考え、図や量などのデータを使って表現させる機会を増やしてほしい。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
	知識・技能	⇒ 教科問わず、不明な言葉の意味を辞書で調べたり、広げたりする学習活動を意図的に実施する。身に付けた知識を他の教科等や生活の中で活用させるなど、技能を働かせる学習を意図的に計画する。【市学習状況調査・国語「言葉の特徴や使い方」に関する事項】の得点向上(前年度同学年比)。 ⇒ 「読み聞かせや朝読書を充実させる。【市学習状況調査・生活「1日あたりの読書時間」の増加(同集団終年比)】研修の時間等を活用し読解力向上に向けた指導技術の向上を図る。【市学習状況調査・国語「知識・技能」の得点向上(前年度同学年比)】
思考・判断・表現	⇒ <学習上の課題>「話の中心を聞き手に伝えるための話し方」に課題がある。算数「データの活用」での無回答率が高い。 ⇒ <指導上の課題>自分の考えや意見を表現することのよさを十分に教えられていない。 ⇒ 「5W1Hや要点を明確にした文章や発表メモなどを基に話者が伝えたいことを適切に伝える力の育成(教職員アンケートによる調査、市学習状況調査・国語「思・判・表」の得点向上(前年度同学年比))」児童の思考を促し、適切に表現できる力を育成するための指導方法を工夫する。【算数科におけるTT、習熟度別学習、教科担任制等】算数「データの活用」での無回答率の低下(同集団終年比)。 ⇒ 「自己の考え等を発信することへの評価方法の工夫改善【本校独自の児童アンケート結果、市学習状況調査・国語「話すこと・聞くこと」の得点向上(同集団終年比)】	

全国学力・学習状況調査 <小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	① 辞書を常に身近に置く等、環境を整えたことで、教科を問わず、不明な言葉の意味を辞書やPCで調べることができ、理解を深めたり、広げたりする学習活動につながった。R6年度さいたま市学習状況調査の国語「言葉の特徴や使い方」に関する事項では、1つの学年を除いて、同集団比較においてR5年度の結果を上回った。 ② 「読み聞かせや朝読書等で充実した読書の時間をもつことができた。R6年度さいたま市学習状況調査の質問項目「1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。」では、3つの学年でR5年度の結果を上回った。 ③ 「読解力向上に向けた指導技術の向上が図れた。R6年度さいたま市学習状況調査・国語「知識・技能」では、1つの学年を除いて、同集団比較においてR5年度の結果を上回った。
思考・判断・表現	A	・5W1Hや要点を明確にした文章や発表メモなどを基に、伝えたいことを適切に伝えるための場面に教科の他にも特別活動、行事等にも設定し、指導した。R6年度さいたま市学習状況調査・国語「思・判・表」では、全学年でR5年度より得点向上(前年度同学年比)を達成した。 ・算数科において、児童の思考を促し、適切に表現できる力を育成するため、TT、習熟度別少人数指導等、工夫した指導を行うことで、R6年度さいたま市学習状況調査・算数「データの活用」での無回答率が低下(同集団終年比)した。 ・R6年度さいたま市学習状況調査・国語「話すこと・聞くこと」の得点はR5年度と比較し向上した(同集団終年比)。引き続き、自己の考え等を発信することへの評価方法の工夫改善について、研修等で研究を深めていく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語について、全体的に全国平均値を上回り、よくできている。主語・述語の関係を捉える問題に課題が見られた。継続的に、語彙と文構造の理解に努めているが、定着に時間がかかっている。全体的に無回答率が低い傾向であるが、問題の最後になるにつれて、無回答率が上がっている。タイムマネジメントに課題が見られる。 算数についても、全体的に全国平均値を上回り、よくできている。除数が小数である場合の計算や除数と商の大きさの関係について課題が見られた。小数の意味を捉え、実生活と結びつけられた問題等に取り組むことを重視していく。
思考・判断・表現	算数の折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題に課題が見られた。「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか」における肯定的な回答の割合は83%であることから、さらに、ポイントとなる数字や言葉を意識しながらまとめる活動を重視していく。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	どの教科でも概ねよくできている。国語について漢字の習熟においては定着しているが「言語の特徴や使い方」や主語と述語を捉える問題についての課題が見られた。漢字の意味まで深く理解していないことが考えられる。算数について、整数や小数の除法の計算や割合の関係を求める問題に課題が見られた。割合については無回答も見られることから、苦手意識をなくせるような個に応じた指導を引き続き実践していく。
思考・判断・表現	どの教科も概ねよくできている。国語「書くこと」では、適切な図表を用いて書き表し方を工夫することに課題が見られた。日頃より、文章を書く相手や目的を念頭に置きながら、文章を推敲する学習を意図的に位置付けていく。 算数「データの活用」について、平均点は低くないものの、他の領域と比べて、課題が見られる。数と図、量を結びつけることに難しさが見られ、多くのデータから必要なデータを取り出すことに困難を感じている様子が見られる。問題に対し、正解を導くだけでなく、その意味を考え、図や量などのデータを使って表現させる機会を増やしてほしい。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	⇒ 教科問わず、不明な言葉の意味を辞書やPCで調べたりして理解を深めたり、広げたりする学習活動を実施した。さらに、身に付けた知識を他の教科等や生活の中で活用させるなど、技能を働かせる学習を進めていく。図書ボランティアによる読み聞かせや朝読書を週1回行い、さらに、読書習慣が身につくよう工夫した読書時間の取組を計画した。 ⇒ 「研修の時間等を活用し読解力向上に向けた指導技術の向上を引き続き、推進する。	変更なし
思考・判断・表現	A	⇒ 教科の他にも特別活動、行事等で5W1Hや要点を明確にした文章や発表メモなどを基に伝えたいことを適切に伝える場面に設定し、指導した。 ⇒ 「特に算数科において児童の思考を促し、適切に表現できる力を育成するため、SAの配置や習熟度別少人数指導等工夫した指導を行うことができた。 ⇒ 「自己の考え等を発信することへの評価方法の工夫改善について、研修の時間等を活用し、行っていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)